

発音練習には目標とすべきモデルの発音が必要です。

立命館大学 経済学部
教授 野澤健 様



GlobalvoiceCALL

2012年4月より、立命館大学ではGlobalvoiceCALL（以下、「GVC」という）を経済学部で利用する全CALL教室に導入しました。

導入の初年度にあたり、まずは経済学部1年生全員（全20クラス以上）の共通科目として、前期は発音の基礎を習得すべくCALL教室を利用して指導しています。

今の学習指導要領で勉強してきた学生は発音記号を習っていません。このため辞書で単語を調べても、その発音を再現することができないことが少なくありません。一方で、コミュニケーションの手段としての英語の発音の重要性を感じている学生は多くいます。

講義では、対立を起こす音素のペアを1回あたり2~3種類のレッスンをします。最初に教員がSPEAKING WELL（Benjamin Willey 著）を用いて英語の母音、子音の説明をします。その後、GVC用にシラバスにそって事前に準備したコンテンツ（単語リスト）をGVCのモニターに表示させて、学生は個々に発音練習をはじめます。

学生はGVCの発音結果が、「GOOD」や「EXCELLENT」のような良い評価だと単純に喜びますし、悪い評価のときは、次は良い評価を得ようと繰り返し発音練習をします。

1回90分の講義で、60分程度をGVCの発音練習に充てています。普通の学生は、おおよそ100回以上、熱心な学生は200回程度の単語の発音練習をします。講義のはじめと終わりの状態で、どのように成果が出たかを確認するために、各学生の「本日の結果」リストを、データ印刷し提出させています。

CALL教室では、一人あたり1台のPCで、GVCを活用できることで、学生は自分のペースで苦手な音の発音練習ができます。成人の学習者は、ともすると大きな声をだして発音することをためらう傾向にありますので、意識してGVCに向かってしゃべる（練習する）ことにGVCを活用させることの意義があると考えています。しかし、週1回の授業でできることは限界があります。授業外での発音練習をいかに定着させるかが今後の課題といえます。

また、GVCを導入して感じられる点は、次の通りです。

1. 学生は、自らの発音と目標の発音とがどの程度離れているか、発音をよくするために克服すべき問題を確認できる。

2. シラバスにあわせて、自由にコンテンツ（単語／文章）を登録できる。特に、コンテンツの表示順序は、登録順であるためであるため、順序の入れ替えが簡単である。
3. GVC の活用により、共通科目として、全クラスの学生の共通基準が持てる一つのツールとなりえる。
4. 学生の GVC の練習回数を見ることで、「熱心さ」という成果を視覚的にみられる。
5. CALL 教室で、一人 1 台の GVC を活用できるので、学生は周囲に気兼ねなく練習できる。また、ぼそぼそしか話さない学生でも必然的に GVC に明瞭に話しかけることになるので、話す（発音練習する）きっかけづくりになる。

あわせて、経済学部では、全学生の個人用パソコンにも GVC ソフトウェアをダウンロードできる環境を提供しています。この環境を最大限いかすことで、熱心な学生は自宅学習でも発音練習ができ、いっそうの発音のレベルアップがはかれていくものと期待しています。

[2013.06.18]



立命館大学

<http://www.ritsumei.jp/>

